

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600966		
法人名	医療法人 土生医院		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	豊後大野市三重町市場546番地3		
自己評価作成日	令和元年9月20日	評価結果市町村受理日	令和2年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和元年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、豊後大野市の中心部に位置し、市役所やスーパーなども近くにあり、入居者様と車いす等を利用し戸外散歩をすることもあります。また経営母体が「医療法人」であり、医院が同一敷地内にあるため、内線電話でつながっているため、緊急時の対応がスムーズにでき、高齢者に必要な医療等が密着しており、体調管理に関する相談もしやすい環境です。
更にホーム内の食事作りはオープンキッチンにしており、職員の手作りで、温かい出来立ての食事を提供できるように努め、食事形態も個々の入居者の状況に応じて工夫しています。
また内部研修や外部研修にも積極的に参加し、資格取得の応援をし、スキルアップできるようにしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員間の仲が良く、前向きに取り組もうとする姿勢が強くみられ、理事長を中心に学ぶことも多く、資格取得へつながっている。また学ぶことで質の向上もみられる。
利用者本位の支援を大切に、理念としても掲げ、支援の中でも実践していることがうかがえた。
・調理を利用者が見える場所で、職員を中心に手作りで、匂いや音・動き・色彩など五感に刺激があり、口から食べるのが重視されている。
・市内でも大変便利な場所であり、市役所も近く、電力会社も目の前で協力体制もあり、災害リスクも低いと考えられる。
・法人母体が医療機関であり、何か起きた時でも素早い対応が担保されているし、日常的にも見守りがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示し、日々の業務の中で意識できるようにしている。また入居者様とその人らしく生活できるよう、会議やカンファ等を利用し、全職員に周知と振り返りを行い実践につなげている。カンファには理事長も出席している。また年間の施設目標を立て振り返りしながら実践できるようにしている	ホーム内に理念を掲げ、大切さを認識し、全職員で意見を出し合い、今の利用者職員の現状に即した、理念を作り上げるために作業中である。現理念については即した支援にしようと努力がみられ利用者本位を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と一緒に近くの銀行等に出向くようにしている。また民生委員の方には敬老会にも参加していただいております。クリスマスイヴには近くの教会より聖歌隊の来訪もある。また地区もお祭りでは神楽が駐車場まで舞ってくれ、交流してくれる。	地域の祭りで、子ども神輿がホームに立ち寄り、楽しませてくれたり、夜の祭りの応援に駐車場へ出て応援、クリスマスには保育園児が訪問して聖歌を歌い交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	藤華医療技術専門学校看護学科の実習生の受け入れをしている。また併設の事業所で行われる映画会には地区の子供たちも参加してくれている。また定期的に園児訪問も受け入れており、地域の方に理解等を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ホームの入居者の状況報告や活動報告、職員研修報告、またヒヤリハット・事故報告書を報告し、委員よりアドバイスや率直な意見を頂き、カンファ等で職員にフィードバックし、日常生活支援に生かせるように取り組んでいる。	定期的開催、活動内容や運営状況を報告、家族の代表、自治会長、市役所など参加され話し合っている。参加者の声掛けにより支援の輪が広がり、地域とのつながりもできている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所が徒歩5分圏内にあり、運営推進委員の案内等は直接持参している。運営推進委員会では市役所職員はほぼ全会出席を頂いている。また生活保護受給者の面談等も実施している。(1名、ホームで金銭管理をしている方は収支報告を半年に1回(通帳コピー・領収書等の提出をしている)	市役所が近いこともあり、ことあるごとに職員は出向き、気軽に相談出来、問題解決のアドバイスや協力も得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、日常介護の何が身体拘束にあたるのか具体的に話し合いをしている。また拘束の必要があった場合は、本人・家族の同意、主治医からの意見等をもらうようにしている。また定期的な見直しをしている。また玄関の施錠は身体拘束ではなく、外部からの危険を避けるためであると入居時に説明し理解を頂いている	定例会の場で身体拘束をしないケアについて話し合っており、車いすの方がずり落ちるケースやスピーチロック等、職員間で話し合い工夫を考えている。ドラッグロックについても看護師や医師を中心に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にあたるものは何かを職員同士で考えながら業務を行っている。身体的虐待はもちろんの事、スピーチロックも虐待に当たる事や、また入居者様にも「don't」ではなく「Let's」で話すように事例等を用いてカンファで説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等についての勉強会を行った。また生活保護受給者に対しては、福祉事務所の方と面談を行ったりしている。また以前は安心サポート制度を利用している入居者の方もいたため、今後も活用できるように支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、施設見学をしていただき、居室の状況や契約書を一緒に確認しながら、システムや料金等の説明している。また説明時には専門用語を使用せずにご家族の方が理解しやすいように心がけている。また家族会等を利用して介護保険制度等での改定等についても説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中から要望等を察することができるように心がけている。特に入浴介助時に、昔の話をしたり、施設での要望等、聞くことを職員と統一している。また家族の面会等ではホールではなく居室で話ができるようにし、発せられた言葉は職員で共有し運営に反映できるようにカンファで情報提供している	半年ごとに家族会を開き、家族の意見や思いを聞き、DVDで日ごろの様子を伝えるようにしている。面会に来られた時面会簿に書くようにしており、言い難いことも言えるよう取り組んでいる。家族は気軽に職員と話し合い、要望や意見を出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、法人全体の定例会議を開催し、理事長も出席している。運営方針や介護報酬、新任職員の紹介、ヒヤリハット報告等を行い、意見交換を実施している。また年に1回理事長との面談も実施したり、職員が直接言いにくい場合は意見箱を設置している	理事長が中心となり企画して勉強会を開き、資格取得など積極的に進めている。職員は働きやすくなるよう要望を出し、産休も取得できるようになっている。職員も自分たちで学び合い、ケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、勤務希望を確認しシフト表を作成している。また子育て中の職員も安心して働けるよう労働時間を設定している。個々のスキルアップのために法人内で勉強会も開催している。母体が医院であるため健康相談にも応じている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年は併設ホームより看護学生の育成も行った。またOJTなどに関しては、研修日を勤務扱いで出席し、伝達研修を実施している。また新任者にはプリセプターを配置しマンツーマンでの指導をしている。介護支援専門員資格の勉強会を開催している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、研修会等に参加している。また参加した職員は、他の事業所の工夫点を伝え、自施設で取り入れられることへの取り組みをしている。また昨年は実績がなかったが、体験実習の受け入れもやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みがあった場合は施設見学をお願いしている。またご本人の見学ができない状況では、職員が出向き、情報収集等を行い少しでも顔なじみになれるように工夫している。また入居に際して不安などの傾聴と観察に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者本人だけではなく、家族の状況、体調等も確認するようにしている。また家族との連絡方法(電話可能な時間)を確認し、相談・要望に対応できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の理由や不安に思っている事、要望等を見極められるように努力している。また医療、薬剤師、福祉用具購入店、理髪店等の連携も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中、職員と一緒に洗濯物をたたんで頂いたり、新聞折りをして頂くなど、できることをお願いしている。また一方的な支援にならないよう、終了時は感謝の気持ちをお伝えするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅への帰省等の支援をしている。また面会時にも居室でゆっくり過ごせるように支援し、遠方のご家族にはグループホームだより等で写真を郵送し近況報告等も行っている。面会者は月平均、延べ50名前後ある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「ふるさと訪問」を企画し、本人のなじみの場所へ案内するようにしている。また親戚や近隣住民等の面会も、歓迎している。以前は師範の資格を持つ入居者には教え子の面会も多く、一緒に過ごせる時間や場所を提供していた	交通の便もよく、市の中心に位置していることから、面会者が多く知人や友人家族が面会に来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事の席等も話し合っ決めていく。内側を向くように工夫し、作業レクや運動レク等を行う際も、入居者が孤立しないように職員が間に入って橋渡し等の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や住み替え等が必要になった方でも、先方に詳細な情報提供書を送り、経過を見守ったり、またお見舞い等に行き、環境の変化に伴う心身ダメージが最小限にとどまるように支援している。またご家族にも声掛けを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユマニチュードを実践できるようにしている。入浴介助や外気浴等では個々の話をしながら要望等の聞き取りを行っている。またその情報をカンファレンス等でケアプランに生かせるように職員間で話し合う機会を設けている。また言葉のみではなく「間」を大切に、態度からも読み取れるように取り組んでいる	支援の中で個々に話を聞くことで、本人の思いや意向を感じ取っている。知り得たことについては職員間で話し合い共有して、本人本位のケアに反映できるようチームワークで支援に活かそうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等の聞き取りを行い入居後の生活に取り入れる努力をしている。また趣味や得意だったものを作業レク等で生かせるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おおよそのホームの流れはあるが、個々に応じた生活リズムを大切にするようにしている。また夜間入浴(夕食後)ができるように職員の配置に工夫をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当CWをつくり、おおむね3か月に1回を目途に褥瘡・転倒リスク等、また日常生活の様子をアセスメントし、計画作成担当者を中心に、本人・家族の意向を確認しながらケアプランを作成し、カンファ等で話し合っている。カンファには医師・看護師の出席もあり、医療的なアドバイスも頂いている	担当を中心に、3ヶ月ごとにアセスメントを行い、6ヶ月ごとのプランを作成している。状態に応じて介護計画の変更も行い、本人や家族からの意見や、職員間で話し合っ、より本人主体のケアとなるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル測定値、排泄、食事・水分量等の記録、また、状況や発した言葉等を記録し、申し送り等で情報共有している。また内容がケアプランに生かせるように、またケアプランが実践に生かせるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連携しながら介護保険の更新申請代行や病院への付き添い等も実施している。また銀行の付き添いも行い、家族との外出支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方に敬老会に参加して頂いている。また地域の祭りでは子供神輿が施設に来てくれたり、クリスマスイヴには聖歌隊の来所や、園児訪問、三重の祭り見学等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体が医院ではあるが、入居時にかかりつけ医は変更しなくても良いことを説明している。他の病院受診時には基本ご家族の同行をお願いしているが、緊急時はこちらで対応し、家人に情報提供をしている。	入居前より母体医院を利用していることで、継続して受診をして安心した支援となっている。他の専門医療機関を利用する時は、家族主体で受診しているが、職員と家族・医療機関で情報は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるが、同一敷地内の医院の看護師とも協力し、状態報告や相談等にも関わっている。また夜間も電話での相談や連絡体制を確保している。カンファレンスには医師や看護師も出席するため、介護方法や観察のポイント等の助言を頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院等の変化時には、医療的な処置でのダメージが予測され、入院先に詳細な情報提供を行い、面会をしたりしている。また退院時には日常生活での注意点等を確認し、医療との関係性にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針については、入居時ではなく、信頼関係を構築したのちに確認するようにしている。また重度化した場合は、主治医・看護師の同席で本人・家族の意向を確認しながら安心できるような話し合いを設けている。ほとんどの場合、医療との連携をしながらホームでの終末期を希望している	入居者の大半が介護4・5と重度化しており、車いす対応での支援で、緊急時の対応や家族との連絡体制も考慮している。看取りについては隣接に母体医院もあり即対応が出来、本人家族も安心した対応が可能である。看取りに関しての教育やメンタルケアも実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や、定例会で応急手当の方法を勉強している。また緊急時のマニュアルを作成し、定期的に発生するインフルエンザ・突発的な発熱・嘔吐にも対応できるようにしている。また高齢者の疾患を毎月テーマを決めて定例会で研修をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5月11月に消防避難訓練を実施している。また2回とも夜間想定で行い、11月は消防署職員の立ち合いで実施。当日は全員参加を原則としている。また運営推進会議等で、施設内を案内し、避難経路等の説明をしている。災害時発生に備えて食料等の備蓄も準備している	年2回の避難訓練と消防点検は消防署立ち合いで行われ、災害・火災発生時のマニュアルが用意されている。水害時や地震の際のシミュレーションから避難所へ行くことより、隣接医院の3階へ避難する方がスムーズな体制と職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の先輩であることを認識し、人格尊重ができるように支援している。またプライバシーが保てるようにドアの開閉や入浴・排泄介助に工夫をしている。職員で統一した認識が保てるようにしている	トイレでの排泄時や入浴の際のプライバシーへの配慮、些細な違和感を大事に職員間で気付きを大切にしている。言葉遣いについても尊厳を持った言い方や、接遇について職員へ意識付けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつやジュース等は入居者に聞き、選択ができるようにしている。またすべての介助において、確認しながら実施し、意思表示の困難な方には表情等を読み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れはあるが、職員の都合による強引な介助にならないよう、入居者のペースを大切にしている。朝食前に新聞を読む方、読んでから食事をされる方など、意思決定を確認して実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、起床時に本日の衣服等の決定をしていただき、上着等の確認もしている。また食後口腔ケアや爪切り、髪型、洗面等の介助の際も、できるところは行っていただき、できない部分を介助している。衣服の汚染に対してはすぐに更衣ができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンキッチンにしており、入居者が料理する職員との会話もできる。献立の際の参考に好物を聞いたり、また入居者の食事形態も工夫している。ミキサー食の方にも1皿ずつ分け、目で見て楽しめる工夫をしている。料理の匂いも楽しみの一つである。現在は、入居者と一緒に準備・片づけはできていない	利用者が食べやすく好みの献立をし、見えるオープンキッチン調理、職員が調理する姿や音・香りなど五感で感じながら、食べることを大切にしている。食べ難くなった方に対しては、食べやすい形態にし、介助して少しでも食べる支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、水分摂取量を記録し情報共有している。また食思低下の方には高カロリーな補食をい提供したり、夏季になるとお茶で作ったゼリー等で水分補給に役立てている。またコップ等も個別に設定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に応じた口腔ケアを食後に行っている。義歯の方には洗剤剤をもちいた方法も行っている。また食事前には「パタカラ運動」などの口腔リハビリやマッサージを行い、嚥下を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室にトイレが設置されている。日中はトイレで排泄できるように排泄時間を記録し、誘導を行っている。意思表示できない方には表情から読み取れるように心がけ、オムツ着用者は排泄後、陰部洗浄を行い、温タオルで清拭し、不快感のないようにしている。	重度化によりリハビリパンツの利用が多くなっているが、極力自室のトイレで、自分の力で排泄するよう、さり気ない誘導を心掛けている。オムツでの排泄時は陰部の洗浄など気持ちの良い排泄となるよう支援がみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は腸蠕動が低下していることを理解している。また排泄のパターンを個々に理解し、食物繊維の豊富な食材を用いたり、水分補給に工夫をしているが、必要に応じて緩下剤を用いている、またトイレでの排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定表を作成しているが、本人の体調等を考慮し都度変更している。また体調によっては清拭等に変更したり、足浴・手浴は常時取り入れている。また現在は夜間入浴を行っている。今後季節に応じてゆず湯を計画している	入浴は週に2~3回で、交代で入浴していることで、希望や必要に応じて入浴でき、夜間入浴も可能である。体調により入浴が出来ない時は清拭や陰部洗浄など清潔保持をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入浴を取り入れることで、入浴後に布団に入ることができ、安眠につながっていることを理解している。また午睡時間を設け、ゆっくり休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による薬剤師居宅管理指導を取り入れている。服薬している薬剤を把握するために処方箋ファイルを作成している。また入居者に合わせて一包化・粉碎等、薬剤師と情報交換している。薬剤変更時は副作用等を確認し、職員で共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや新聞折り等、また敬老会や園児訪問等でのお礼のあいさつ等を依頼している。また季節に合わせた壁紙づくりは楽しみであり、「今月は？」との言葉も聞かれ気分転換にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外気浴を行っている。また、季節ごとの行事を大切に、花見やチューリップ見学、祭り等の観覧、花火、ソーメン流し等を行ったりしている。また同法人内の神楽鑑賞に参加したりする。ふるさと訪問は看護学生の実習中に計画をしている。職員に見せる表情とは異なり新たな発見もある	機会あるごとに法人内の行事や催し物に参加、ホーム前の庭先でひなたぼっこ等外に出ることを心がけている。個別に銀行へ歩いて出かける方や、故郷訪問等も実施している。寒い季節や雨で外に出られない時は、ホールから運動もかねて外の景色や、道行く人や車の動きなどを眺めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が、家族管理であるが、以前は安心サポートを利用している方もいた。また生保の方は福祉事務所に収支報告書を提出したりしている。また自分で少額を管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた手紙・はがき等は職員と一緒に読んだり、居室に飾るなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中のほとんどをホールで過ごされる方が多いため、キッチンからみえる範囲にテーブル等を配置している。またキッチンから調理の匂いから生活感を感じて頂いている。異臭等にエアクリナーの設置を行い、寒い時期でも1日1回は窓を開け換気をしている。ホールの窓際には草花を置いたりしている	廊下の壁に、季節ごとの手作りの壁飾りや、ホールには大きなクリスマスツリーやオーナメントを飾り気持ちを揺らす工夫をしている。外からの光も柔らかく、調理をしている職員の姿は家庭的なゆったりと過ごせる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士でテーブルを囲み食事をしているが、ソファやミニテーブルも活用している。お気に入りの場所で過ごせるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で、使い慣れたものがあれば持ち込んでほしいと依頼している。また面会時に撮った家族写真等を飾ったり、家族面会時にゆっくり過ごせるように椅子を配置したりしている。テレビを持ち込まれている方や、位牌を持ち込まれている方もいる	家族との思い出や記念の小物、思いのこもった物などを飾り、本人の日常に必要な品をそろえて生活しやすい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、歩行練習を行っている。また居室のトイレ等が利用しやすいようにベッドの位置も工夫している。		